

2014(H26) 年 9月 No.16

自主防災の基本

減災だより

被害をできるだけ小さくする情報

自助：自らの〔命・家族・資産〕は自ら守る
近助：防災は〔近所の助け合い〕が大切
共助：自主防災は〔B自治会〕が自主防災隊

地域防災力強化に資する情報誌

発行：B 地区茅ヶ崎自治会 自主防災隊 (防災支援隊)

B自治会 自主防災隊規程において、街区役員が平常時にやるべきこと

街区役員は、災害時を想定して、自主防災隊規程に記述されている役割を担うには、平常時に準備しておくこと(No.14)や、さらには防災知識・情報の吸収、そして訓練の

実施があります。これらから自主防災隊の各班の平常時にやるべきことについて明確にします。毎年各役員が自覚するなかで、実効あるものにしていきたいと思ひます。

A、総合調整情報班

A1、防災(減災)に関する意識の啓発、高揚(26年4月から実施中)

- ① 防災(減災)に資する情報の提供
- ② 防災(減災)に関する講演会、勉強会、説明会、見学会の開催

A2、防災(減災)に関して、備えておくもの

- ① B街区における防災(減災)の状況の把握(26年度7月アンケートの実施)
- ② 各担当街区の居住者数の把握と集計票の作成(26年度7月実施)
- ③ B街区 居住者数の集計票(26年度7月実施)
- ④ 街頭消火器、消火栓配置状況(26年度8月実施)
- ⑤ 各担当街区と自主防災隊の各班のファイルの配布(26年度8月実施)
- ⑥ 必要な防災資機材の購入・配備
- ⑦ いっとき避難所の文具用品の購入
- ⑧ 被害発生時の自主防災隊の連絡先一覧表の作成

- (訓練) ① 被害情報の収集と情報伝達(11/9 予定)
② ハンドマイク、メガホンによる伝達
③ 無線機器の操作

B、消火班

- ① 各家庭の火災予防の普及
- ② 街頭消火器などの消火設備の保管管理
- ③ 消火栓による放水

- (訓練) ① 初期消火の協力体制づくり
② 消火栓による放水
③ 消火器による消火
④ バケツ消火による消火

C、救出救護班

- ① 要介護者、高齢者などの情報の把握、スムーズな態勢の確立
- ② 応急資機材等の保守管理

- (訓練) ① 応急手当の方法と救出救護
② バール、梯子、ロープ、たんか、チェーンソーなどの操作
③ 震災救護所や医療機関との連絡や搬送

D、避難誘導班

- ① 避難装備(服装、持ち物など)チェック

- (訓練) ① 避難訓練(誘導・要援護者支援)
② 誘導の仕方、③危険個所の連絡ルート

E、給食給水班

- ① 救助物資の配分台帳の作成
- ③ 訓練などの資機材・物資の調達管理

- (訓練) ①炊きだし ②ろ水器の操作 ③食料の配分 ④水の配分 ⑤会場の設営

(以上の内容は、必要の都度、変更・追加していく)

防災支援隊活動の指針となる資料

茅ヶ崎市の「自主防災組織活動の手引」 ～地域防災力の強化のために～ (2013年12月)	藤沢市の湘南大庭地区 防災計画 地震対策編 2013年版	地震へのそなえ! 産業技術総合研究所 監修 加藤碩一	避難所 運営マニュアル 茅ヶ崎市/藤沢市
--	------------------------------------	----------------------------------	----------------------------

★ 本誌に関する 連絡・問い合わせ先 B 茅ヶ崎自治会 防災支援隊 ★

地震だ！ その時、どうするか？

地震発生

B、揺れがおさまった・・・その時どうしますか？

(地震直後の落ちついた行動が、あなたの命を守り、二次被害を防ぐ)

「減災だより」26年6月No.14で詳細説明

B、地震停止直後

- B1、すはやく火の始末
- B2、脱出口を確保する
- B3、水をためる
- B4、状況を確認する

(揺れているときは、シェークアウトで身を守る)

- B1、揺れが止まってから、火の始末。
- B2、脱出口を確保。(むやみに出ない。判断が必要)
- B3、飲み水だけでなく、生活用水として使える水も貯める。
- B4、家、家具、家族の安否確認などのあと、行政/消防/警察 /ラジオ/TV などから情報を得て行動の判断をする。

C、地震停止直後のその後の対処

その時の

備え

- C11、ガラス破損防止
- C12、寝室、2Fなどに履物を置く
- C52、安心カプセル・安心カードの作成と配備
- C53、「無事」を知らせる旗などを配備
- C54、非常持ち出し袋に非常持ち出し品を用意する
- C55、ヘルメット、頭巾を用意
- C56、貴重品を整理し、置き場所を特定する

その時のための

行動指針

- C1、ガラスの破片が飛び散っている場合は家のなかでもスリッパ、靴などを履く。
- C2、念のため、電気のブレーカー、ガス栓を切る。
- C3、余震を想定して、対処する。
- C4、すぐに避難が必要な状況とは**
 - C41、自宅や近隣の家が倒れそう。(ミシミシッと音が聞こえる。建物が傾いている。大きな亀裂が入っている。)
 - C42、自分では消せないほどの火が出ている。(炎が天井まで届いている)
- C5、避難する時**
 - C51、もう一度火元を確認、電気、ガス、水道の元栓を切る。念のため全てのプラグからコンセントを外す。
 - C52、安心カードを身に付ける。
 - C53、自主防災隊へ無事であることを知らせる。
 - C54、非常持ち出し袋を持って出る。
 - C55、ヘルメット、防災頭巾をかぶる。
 - C56、貴重品を持ち出す。(めがねなども)
- C6、安否確認**

その時のための

訓練

C6、(訓練) <安否確認>

安否確認は、災害時開設される**災害用伝言ダイヤル**に被害地の状況を**171-1**で録音し、**171-2**で再生してその内容を確認できます。

災害用伝言ダイヤルは下記の日程で開設されるので、各自が<安否確認>の訓練ができます。

- 訓練日
- ・毎月1日、15日
 - ・1/15~21日
 - ・1/1~1/3日
 - ・8/30~9/5日

(参考資料) ★「なかなかできない地震への備え！」 監修 加藤碩一 発行制作 アドヴィク
 ★「震災から自分と家族を守るために普段から備えておこう」 公明党 防災ブックレット ★「減災行動のススメ」横浜市消防局
 ★「災害から身を守る知恵袋」九都市県合同防災訓練連絡部会 ★「震災対策ポケットマニュアル」日経新聞出版社
 ★「これ一冊でできるわが家の防災マニュアル」国崎信江